

「Diginnos パソコン」 内部の作業をする場合

- 内部電子部品の破損を防ぐため、電源を切り電源ケーブルをコンセントから抜いて20秒以上たってから作業を行ってください。
- ケースの角や内部の尖ったところ等でけがをしないよう、必ず防護用手袋を着用し、注意して作業を行ってください。
- 電源を切った直後はパソコン内部に高温になっているパーツがあるため、十分冷めてから作業を行ってください。
- 内部電子部品の破損を防ぐため、ケースなどの金属部分に手を触れて、静電気を逃がしてから作業を行ってください。
- 金属の接点部分には触れないようにしてください。皮脂等が付着することにより、接触不良の原因となります。
- 作業中は電子部品の破損しないよう、注意して作業を行ってください。どんなに小さな部品でも破損すると作動しません。
- 一度に複数の増設は行わず、一つずつ行ってください。

Diginnosパソコンの保証について

Diginnosパソコンの保証は、通常・延長保証あるいはパソコン保険加入に関わらずご購入時の構成であることを原則としております。お客様側で内部構成の変更をされた状態では弊社保証、及び保険適用対象外となります。検証修理をご用命の際には、ご購入時の構成に戻したうえでご依頼ください。

増設・交換作業時の注意

作業中の手違いや過失でパーツやパソコン本体が故障してしまった場合は保証対象外となります。

自分ではできないと感じたら、無理をせずにお買い上げいただいたドスパラ店舗、またはコールセンターまでご相談ください。

※ただし、別途パソコン保険に加入されている商品については作業中の手違いや過失でも保証対象となる場合があります。

KT/KTM ミドルタワーケースのカバーの開け方

- ① パソコンを背面から見て、向かって右側にあるネジを2本外します。
- ② パソコンを背面から見て、向かって右側にあるパネルを背面側へ1～2cm スライドさせます。
- ③ スライドさせたパネルを外側に外します。

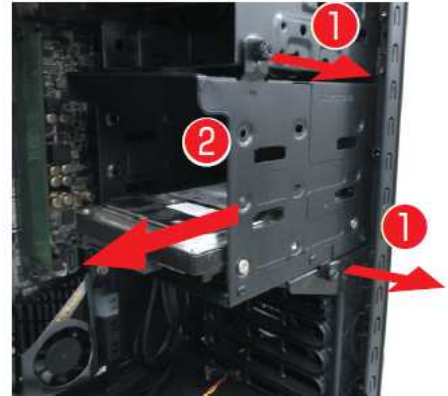


KTM ミニタワーケースのハードディスクの増設方法

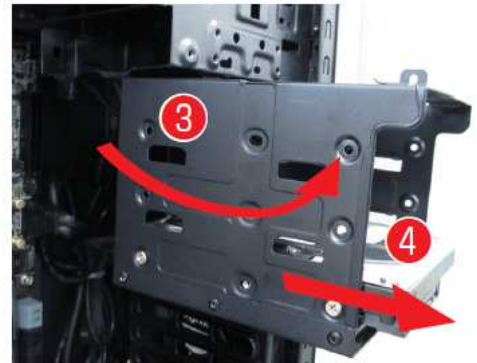
● シャドウベイを取り外します

ハードディスクトレイは 3.5 インチハードディスクのシャドウベイに収まっています。

- ① シャドウベイを固定している手回しネジを外します。
- ② シャドウベイを後ろ側にずらしてロックを外します。
※メモリや CPU クーラーと当たってしまう場合は、取り外してから作業を行ってください。



- ③ シャドウベイを手前から 90 度回します。
- ④ シャドウベイを引き抜きます。



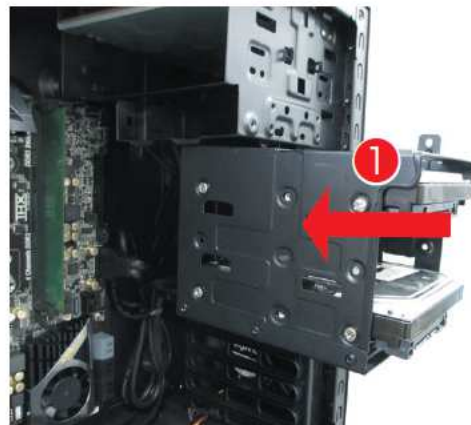
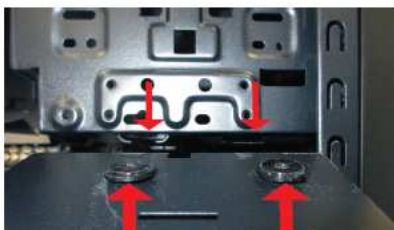
● 増設用ハードディスクを固定します

- ① ハードディスクのラベル面を上向きにして挿入します。
- ② ハードディスクのネジ穴とネジ位置が合うように調整して、左右から 2 本ずつネジで固定します。



●シャドウベイを取り付けます

- ①シャドウベイの上にあるボタン状の突起をレールに合わせてはめ込みます。

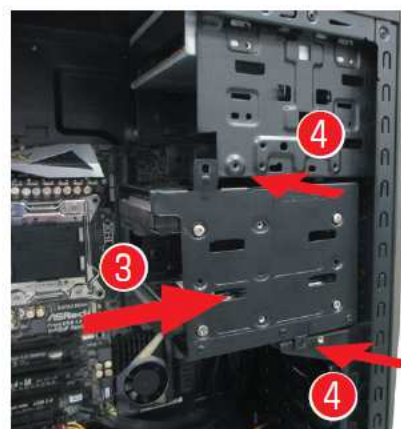


- ②シャドウベイを奥側に90度回します。



- ③シャドウベイをフロント側にずらしてロックします。

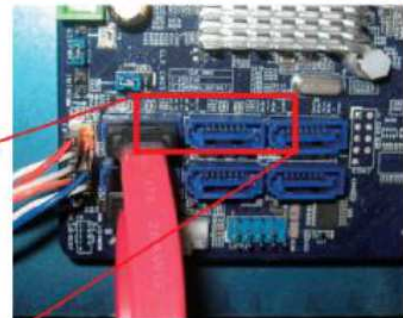
- ④シャドウベイを手回しネジでケースに固定します。



ハードディスクを接続する

● ケーブルを接続する

- ① マザーボードに新しいS-ATAケーブルを接続する。S-ATAケーブルをマザーボードのS-ATAのコネクタに接続します。コネクタには印刷番号が割り振られていますので数字の若い空きコネクタに接続します。



- ② ハードディスクのコネクタにS-ATAケーブル・電源ケーブルを接続します。



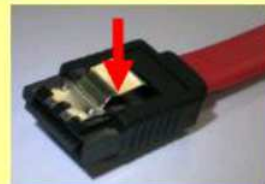
● Windowsでのハードディスク設定

ハードディスク接続後にWindowsにてハードディスクの設定を行ないます。

HDDのフォーマットについては、下記FAQをご参照下さい。
FAQNo.167773 Windows/パソコンの新規HDDの導入について
<http://faq2.dospara.co.jp/EokpControl?&tid=724730&event=FE0006>

交換作業時の注意

- ラッチ付きシリアルATAケーブルの注意
ラッチを押し必ず爪を外しながら、ケーブルを抜いてください。
※そのまま抜くとコネクタの破損の可能性があります。



- シリアルATAケーブルの抜き差し時の注意
抜き差しをする際は、コネクタを掴み抜き差しを行ないます。
※ケーブルを引っ張って抜くと破損の原因になります。



- ハードディスク取扱時の注意
ハードディスクの底面は、基盤が露出しています。
誤って素手で触らないようにしましょう。

